MAFF NAVI みやぎ
MAFF
東北農政局宮城県拠点
Vol.16［令和８年10月］

テーマは「宮城県における有機農業の取組状況」

宮城県拠点のWebサイトはこちら →

田の有機JAS認証ほ場面積と割合（令和７年３月31日現在）

ー 宮城県における有機JAS認証を取得している田のほ場面積は全国１位 ー

田の有機JAS認証ほ場面積（令和７年３月31日現在）の全国上位５都道府県をみると、宮城県は396haで全国１位となっており、次いで新潟県345ha、秋田県279ha、熊本県251ha、滋賀県238haの順となっています。

更に上位10都道府県には山形県（７位）、青森県（９位）、福島県（10位）の東北各県がランクインしています（図１）。

宮城県における田の有機JAS認証ほ場面積の推移をみると、平成29年までの減少傾向が、平成30年以降は増加傾向に転じています（図２）。また、令和７年の田耕地面積に占める有機JAS認証ほ場面積割合は、0.39％となっています。

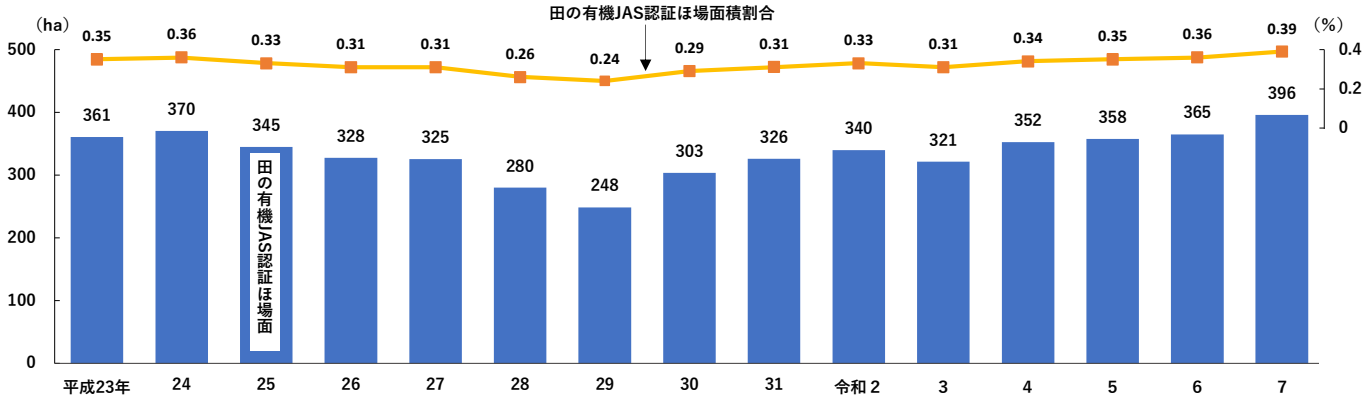
図１　令和７年都道府県別の有機JAS認証ほ場面積（田）（全国上位10都道府県）



注：青森と福島の順位については、表示単位未満で判定している。

資料：農林水産省大臣官房新事業・食品産業部「国内における有機ほ場面積（令和７年３月31日現在）」（図２において同じ。）

図２　田の有機JAS認証ほ場面積及び田耕地面積に占める割合の推移（宮城県）



注：「田の有機JAS認証ほ場面積割合」を算出する際の「田耕地面積」には、農林水産省統計部「耕地及び作付面積統計」を用いた。

「有機食品の検査認証制度」と「有機農産物等の格付実績及び有機ほ場の面積」（農林水産省大臣官房新事業・食品産業部）については、こちらからご覧いただけます。
農林水産省ホームページ → https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/yuuki.html

有機JASとは

「有機JAS」は、有機食品（農薬や化学肥料などの化学物質に頼らないことを基本として、自然界の力で生産された食品）について農林水産大臣が定める国家規格です。

有機食品のJASに適合した生産が行われていることを登録認証機関が検査し、その結果、認証された事業者のみが有機JASマークを貼ることができます。

有機JASマークがない農産物、畜産物、加工食品に、「有機」「オーガニック」などの名称の表示や、これと紛らわしい表示を付すことは法律で禁止されています。

農林業センサスにおける留意事項

「農林業センサス調査結果」は、同調査に回答した農業経営体の所在地（県、市町村、農業集落等）ごとに集計した属人調査結果となっています。

また、調査対象となった農業経営体自身が回答した自計申告の調査結果であり、現地確認したものではありません。

農林業センサスにおける「有機農業」とは、化学的に合成された肥料及び農薬の両方を使用しない農業をいい、有機JASの認証を受けていない場合も該当します。

なお、以下の取組については有機農業に該当しない、と定義されています。

(1) 化学的に合成された肥料及び農薬を使用した「減化学肥料栽培」、「減農薬栽培」

(2) 化学的に合成された肥料を含む「有機入り化成肥料」や「有機配合肥料」を使用した場合

2025年農林業センサス結果からみた有機農業への取組状況（宮城県）

（1）有機農業に取り組んでいる作物別作付（栽培）面積及び有機面積割合

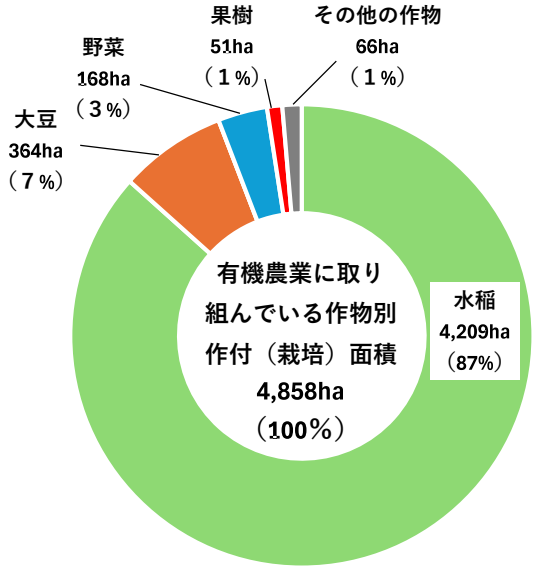
－ 水稲が有機農業に取り組んでいる作付（栽培）面積の約９割を占める －

販売を目的に有機農業に取り組んでいる作物別の作付（栽培）面積については、水稲が4,209ha（87%）で最も多く、次いで大豆364ha（７%）、野菜168ha（３%）の順となっています（図３）。

また、市町村別の耕地面積（田畑計）※に占める有機農業に取り組んでいる耕地実面積の割合をみると、利府町（10.4%）が最も高く、角田市（10.0%）、登米市（7.1%）、大和町（6.1%）、蔵王町（5.3%）及び美里町（5.0%）が５%以上となっています（図４）。

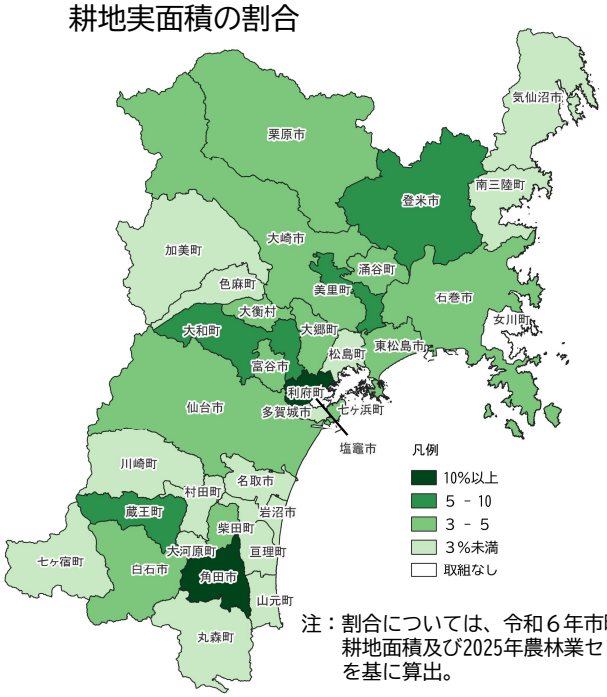
※ 農林水産省統計部「令和６年市町村別耕地面積」

図３　有機農業に取り組んでいる作物別の作付（栽培）面積及び割合



注：　割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。
資料：農林水産省統計部「農林業センサス（令和７年２月１日現在）」（以下図６まで同じ。）

図４　耕地面積に占める有機農業に取り組でいる耕地実面積の割合



注：割合については、令和６年市町村別耕地面積及び2025年農林業センサスを基に算出。

（2）有機農業に取り組んでいる上位10市町村の耕地実面積及び経営体数

－ 登米市が県内で有機農業の耕地実面積、経営体数ともに県内１位 －

有機農業に取り組んでいる市町村別の耕地実面積は、登米市が1,247haで最も多く、次いで大崎市644ha、栗原市606ha、角田市414ha、石巻市295haの順となっており、このうち角田市を除く４市がオーガニックビレッジ※に取り組んでいます（図５）。

また、市町村別の経営体数は、登米市が456経営体で最も多く、次いで栗原市227経営体、大崎市202経営体、角田市155経営体、石巻市110経営体の順となっています（図６）。

※ 有機農業の拡大に向けて、ほ場の団地化などの**生産から**学校給食の利用など**消費まで**一貫した取組を、農業者、事業者、地域内外の住民などの関係者が参画の下、**地域ぐるみで進める市町村。**

図５　有機農業に取り組んでいる耕地実面積（県内上位10市町村）

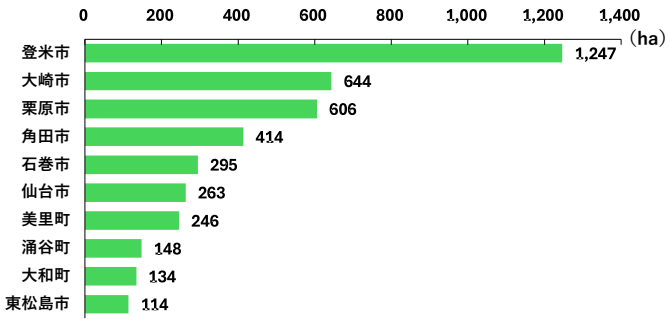
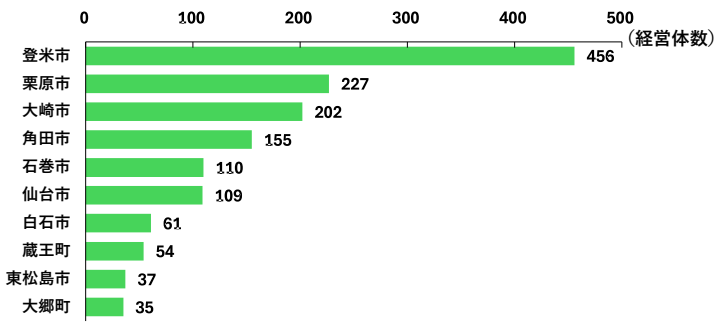


図６　有機農業に取り組んでいる経営体数（県内上位10市町村）



-お問合せ-　東北農政局宮城県拠点　分析担当　電話：022-221-6404